



今から遡ること約200年前、時は江戸時代、鎖国下にあった日本に対して、ロシア側から通商を求める動きが強くなってきます。日本は、ロシアの要求に対し断固拒否したため、ロシアも武力行使という手段をとってきました。その標的となったのがロシアから近い樺太（サハリン）や千島で、利尻島も例外ではなく1807【文化4】年に襲撃に遭い、商船などが焼き払われたり島民が捕虜に捕られたりしました。ペリー来航の50年前、いち早く外国の洗礼を受けた北辺における一連の事件、まさに「北の黒船事件」とも呼ばれるべきことがあった時代でした。

こうした動きに対し、幕府は会津藩をはじめとする奥羽（東北）諸藩に蝦夷地防備の出兵を命じます。会津藩の任地は、松前（函館）、宗谷、利尻、樺太で、総勢1,600名ほどの藩士が出陣しました。利尻島には250名ほどの藩士が派遣され警備に当たりました。山を越え、海を越え、出陣から約4ヶ月の道のりをへてようやく島に到着したことが、当時の記録に残っています。

翌文化5年、島での警備中、幸いにもロシア側との交戦はなく、約3ヶ月で任務を終え、会津に帰還しました。しかし、樺太警備を終えた藩士を乗せた7隻のうちの1隻である観勢丸が、その帰途で暴風雨に遭い、利尻島のリヤコタン（現在の沓形～種富町の海岸域）に漂着し大破沈没するという痛ましい事故が起こりました。

利尻島内では、その事故で命を落とした者と島で病に臥した者8名の藩士を弔った墓碑が鷺泊ペン岬、本泊慈教寺、種富町の3カ所に安置されています。建立された年代についてはよく分かっていませんが、文化7年に会津藩主であった松平容衆<sup>かたひろ</sup>の命により新潟で刻んだ石を松前経由で各地に運んだといわれます。また、稚内の宗谷護国寺と焼尻島にもそれぞれ2基ずつ墓碑が残されています。

### 島内の墓碑一覧

#### ◆本泊慈教寺境内の墓碑（三基）

※僕＝しもべ（配下）

- ・遠山登僕利助墓 耶麻郡西連村所生 文化五年六月七日 利尻詰梶原隊甲士
- ・関場友吉春温墓 文化五年戊辰七月六日 利尻詰梶原隊与力
- ・白石又右衛門僕宇兵衛墓 耶麻郡夷田村所生 文化五年戊辰八月二日 樺太詰北原隊勘定所役人

#### ◆鷺泊ペン岬広場の墓碑（三基）

- ・樋口源太僕孫吉墓 大沼郡高田村所生 文化五年戊辰七月二十四日 利尻詰梶原隊二〇〇石外様士
- ・渡部左右秀俊墓 文化五年戊辰七月十六日 利尻詰か
- ・丹羽織之丞僕茂右衛門墓 河沼郡駒板村所生 文化五年戊辰七月十二日 樺太詰軍艦四〇〇石軍事奉行

#### ◆沓形種富町の墓碑（二基）

- ・諏訪幾之進光尚墓 文化五年戊辰七月十日 樺太詰北原隊二〇〇石外様士
- ・山田重佐久墓 文化五年戊辰七月八日 樺太詰か

※八名のうち、四名が樺太警備に従事し、観勢丸の漂着事故で亡くなった藩士たちです。残りの四名は、利尻島警備に就いた藩士たちで病死したと考えられます。

## 利尻島における会津藩士墓碑の分布

島内の墓碑は、ペシ岬（以前は本浄寺境内）、本泊慈教寺境内、種富町の3カ所、計8基が安置されています（下図●）。後世に何度か移設をしているものの、島内の北から西にかけてこれら墓碑が残されている背景には、当時本泊に運上屋があったことやリヤコタンでの観勢丸漂着事故などと無関係ではないでしょう。



本泊

リイシリ運上屋

鷺泊

種富町

リヤコタン



◆この件に関するお問い合わせは、利尻富士町教育委員会（電話0163-82-1370）まで